

天皇に捧げられた品々と古代出雲 ～松江市史から古代の出雲を考える～

島根県古代文化センター主任研究員 吉松大志
@松江市立図書館二階大集会室 2017/3/18

1. はじめに

2013 年『松江市史 史料編 3 古代・中世 I』の刊行

2015 年『同 通史編 1 自然環境・原始・古代』の刊行

→松江市域・古代出雲の歴史を幅広い資料を基に豊かに描き出す。

さらに、さまざまな視点から古代出雲の特質を探り出す事が可能になった。

◎出雲から都へ、どんな物が運ばれ、朝廷を支えたのだろうか？

天皇に捧げられた出雲の品々を分析することで、古代国家が出雲をどんな地域として位置づけたか、出雲が古代国家において果たした役割が見えてくるのではないか。

2. 古代出雲の「特産品」とは？

◇出雲から都へ運ばれた品々一覧→【表 1】

「税」（調・庸・贄・中男作物など） と 税以外の臨時の進上物

I）「税」—地方から都へ運ばれた物の量的に大部分を占める 基本となる産物

出雲の税→史 394（『松江市史 史料編 3 古代・中世 I』の史料番号）

←これらの品々は他の国からの税にもみえる。

実際に運ばれた物を示す 1 次史料＝荷札木簡（史 9・10 など）—海産物が多い

II）臨時の進上物—出雲だけが進上する物、「出雲」を冠したブランド産物品など

鵠（白鳥）、玉（水精など）、出雲鯨、出雲席…

←これらはなぜ都に運ばれたのか、どんな場面で活用されたのか？

cf) 出雲からは人間（専門人）も進上された（土部・相撲人・優婆塞）

史 67—野見宿祢が出雲の土部（埴輪工人）を召喚し埴輪を造らせ殉葬停止を進言

史 463・464 など—出雲国相撲人 遅参、疾病、貧弱など種々の問題

◇『出雲国風土記』（以下『風土記』）の産物記事

史 80-28「水精あり。」「檜・檀あり。」「凡そ、諸の山野にある所の草木は、…」

→『風土記』が朝廷への報告書であることを考えると、これらは都での利用可能な産物を示す。『風土記』編纂時の特産品、もしくは将来都に運ばれる特産品候補。

3. 神話・伝承と出雲の品々

◇白鳥 史 74・374 など

出雲国造が上京し天皇の前で神賀詞^{かんよこと}を奏上する。その際、剣（大刀）・鏡・馬などに加

え、鵠^{くぐい}（白鳥）を出雲国造が献上する。

〈出雲国造神賀詞〉

出雲国造が都に参上して天皇の前で読み上げる寿詞^{よこと}（天皇の長寿や繁栄をことほぐ言葉）

時期＝新たな出雲国造が就任・新しい天皇が即位・遷都など“君臣関係が刷新される時”
手順＝潔斎を終えた国造が祝（神祇官社の神職）や一族と共に献上品を携えて入京し、神賀詞を奏上する。

内容＝史 378 全三段構成。

第一段で、出雲で厳粛に神祭りを斎行している出雲国造が天皇の末永い繁栄を寿ぐために上京したことを宣言し、第二段では、出雲国造側の解釈による国譲り神話の説明と、その結果としてオオナムチや奉斎する国造が皇孫を守護する役割を担うと誓う。最後に第三段で、出雲から持参した献上品を紹介し、これらによって天皇の寿命の長久や若返りがなりますようにと祈願する。

→剣・鏡・馬などの献上物は朝廷での他の儀式や神事でも出てくるが、白鳥はこの出雲国造神賀詞奏上儀礼でのみみえる。なぜ白鳥が献上されたのか？

・古代における白鳥関連伝承＝ヤマトタケル伝承やホムチワケ伝承（←出雲が登場）

◇ホムチワケ伝承

『古事記』史 28 垂仁天皇 本牟智和氣^{ほんむちわけ}の御子

御子は成人しても言葉を話さなかったが、鵠の音を聞いて初めて声を発した。天皇から捕獲せよと命を受けた山辺大鶴は、紀伊・播磨・因幡・丹波・但馬・近江・美濃・尾張・信濃の国と追いかけて、ついに高志の国で捕獲、天皇に献上した。ところが、御子は鵠を見ても言葉を発しない。悩んだ天皇は、「私の宮を天皇の宮殿のように修造したならば、御子は言葉を話すだろう。」という夢を見る。占ったところ、出雲大神の祟りと判明する。そこで御子に大神の宮を参拝に行かせると、大神の参拝を終えた御子が言葉を話すようになった。喜んだ天皇は出雲大神の宮を造営し、鳥取部・鳥甘部・品遅部などを設定した。

・『日本書紀』垂仁天皇二十三年①九月丁卯・②十月壬申・③十一月乙未条

①天皇が「^{ほむつわけのみこ}菅津別王は、30 になったのに子どものように泣き、言葉を話さない。理由を調べろ」と命じる。②ホムツワケが^{くぐい}鳴鶴を見て「あれは何だ」と話す。喜んだ天皇は「あの鳥を捕まえろ」と言うと、鳥取造の祖 ^{あめのゆかわたな}天湯河板拳が「私が必ず捕まえましょう」と宣言。天湯河板拳は鶴の飛び方を見て追いかけて、出雲（一説には但馬国）で捕獲した。

③天湯河板拳が天皇に鶴を献上。ホムツワケは鶴を「^{してあそ}弄び」言葉を話すようになった。天皇は天湯河板拳を褒賞し鳥取造の氏姓を与え、鳥取部・鳥養部・菅津部を定めた。
(cf) 鳥取部は出雲郡健部郷はじめ全国に散在。集住した地＝鳥取郷（因幡国など）

→白鳥に端を発し、鳥取部・品遅部の設定、出雲大神への祭祀やその宮（杵築大社）の成立に関わる重要な伝承
白鳥の捕獲地として出雲や高志（越＝北陸地方）が登場。なぜか？

◎現在の白鳥の飛来地（越冬地）【表 2】

関東以西で白鳥の飛来が集中的に確認できるのは新潟・石川県と島根県のみ。
特に島根県は、東部の出雲地域（中海・宍道湖沿岸）でのみ確認されている。

・『新撰姓氏録』右京神別上 （平安時代初期の畿内氏族一覧）

鳥取連という氏族の由来 鳥取連の祖 ^{あめのゆかわたなのみこと}天湯河板命 が垂仁天皇の命を受けて鶴を追い求め、「出雲国宇夜江」で捕らえる。喜んだ天皇は鳥取連の姓を賜ったという。
（↑出雲市斐川町宇屋谷付近。入海の水辺。）

・宇夜里 『風土記』によると、出雲郡健部郷の旧名
「健部郷。郡家の正東一十二里二百廿四歩なり。先に宇夜里と号けし所以は、宇夜都弁命、其の山の峰に天降り坐しき。即ち、彼の神の社、今に至るまで猶此処に坐す。故、宇夜里と云ひき。而して後に、改めて健部と号くる所以は、纏向檜代宮御宇（景行）天皇、勅りたまひしく、『朕が御子、倭健命の御名を忘れじ』とのりたまひて、健部を定め給ひき。爾時に、神門臣古彌を健部に定め給ひき。即ち、健部臣等、古より今に至るまで、猶此の巡処に居り。故、健部と云ふ。」

◎健部郷条—『風土記』で唯一「里」時代（701～715 年）の名を記す。
なぜ『風土記』完成時には使われなくなった情報を記す必要があったのか？

→ホムチワケ伝承の白鳥捕獲地として著名な「宇夜」の位置を示す意図
朝廷で流布・周知されていた出雲を舞台とする神話・伝承への著しい配慮

健部—『風土記』では景行天皇が倭健命の名を忘れまいとして健部を設定と記す。
実際には、王権の武力編成のために 5 世紀後半以降に設定された部民

倭健命—記・紀によると、景行天皇の命により諸国征伐に奔走し、伊勢の^{のぼの}能褒野で亡くなる。その墓から魂が白鳥になって飛び立つ。
ヤマトタケル伝承は 6 世紀中葉の継体朝以降の成立（松前健説）

→出雲国の宇夜地域に健部が設定されたのは、そこが白鳥の飛来地であり、死後白鳥となったと語られたヤマトタケル伝承が意識されたのではないか。
白鳥は天皇の御子を救う特別な力を秘めた、天皇の永遠の魂を宿す鳥というイメージが形成され、天皇の長寿と繁栄を祈願する神賀詞奏上儀礼で献上されたのではないか。

◇出雲の玉と天皇

史 374（神賀詞奏上時の献上品） 鶴と並ぶもう 1 つの出雲の特産品「玉」
「赤水精・白水精・青石玉」—史 378＝天皇の長寿になぞらえた“縁起物”

史 80-25「^{かむよごとほか}国造神吉詞望 ^ひに、^{みほぎ}朝廷に参向ふ時、御祈の忌玉作なり。」
＝忌部神戸、現在の玉湯町周辺で製作。

史 376 毎年意宇郡の玉作氏が御富岐玉六十連を朝廷に進上
「大殿祭（おおとのほがい）」で三十六連を消費
└天皇の住む御殿（大殿）の霊力を更新する祭り。御殿の四柱に出雲の玉を懸ける。
＝出雲の玉には天皇の霊威を育み、再生させる霊力がある（菊地照夫説）

・もう一つの玉の産地

史 80-28「長江山。郡家の東南五十里なり。水精あり。」
長江山—現永江山（安来市伯太町）、伯耆国との境
『風土記』母里郷条
「天下造らしし大神大穴持命、越の八口を平らげ賜ひて還り坐しし時に、長江山に来坐して詔りたまひしく、『我が造り坐して^{ことよ}命さす国は、皇御孫命平けく世を知らせと依せ奉る。但し、八雲立つ出雲国は、我が静り坐す国と、青垣山廻らし賜ひて、^{たま}玉珍直に賜はりて守らむ』と詔りたまひき。故、文理といふ。」

→玉を産出する長江山は、大穴持命が国譲りを宣言した“聖地”として認識される。
記・紀神話では、国譲り後の天孫降臨時、ニニギが「八坂瓊曲玉」などの三種宝物や、玉作氏の祖玉屋命などの神々を携えて葦原中国に降臨
⇒天皇の列島支配の思想的根拠の一つが国譲り神話。それを物質的に支える重要なアイテムが「玉」であった。さらに、出雲の玉は天皇自身の霊威を再生させ、活発化させる機能を期待された。出雲国造による神賀詞奏上時の玉献上は、天皇による国家支配を可視化する役割を果たした。

cf) 仏教も支える水精＝数珠・仏像装飾・基石…

基石—中国の古代寺院跡から石英製基石玉が出土（＝白玉） 正倉院宝物にも。
『風土記』島根郡玉結（緒）浜「碁（石）有り。」 黒色頁岩採集（＝黒玉）
僧尼令「音楽や博戯（博打）は処罰するが、碁や琴は不問。」…碁は僧尼が愛好
水精は貴重な輸出品…唐使へ「出火水精」（火打石）贈与（『延喜式』大蔵省）

4. 都へ運ばれた物・運ばれなかった物

◇「出雲」を冠したブランド

・出雲鰯 史 414

「五月五日の節会」で「東鰯」「長門鰯」「阿波鰯」「出雲鰯」「隠岐鰯」が供膳
（↑騎射や走馬を天皇や貴族が観覧。菖蒲の髪飾りを付ける決まり。終了後直会）
cf) 隠岐鰯…新羅からの使者への饗宴など、朝廷の多くの場面で利用。

『風土記』出雲郡—「鰯は出雲郡尤も優れり。捕る者は、謂はゆる御埼海子。」

→出雲・隠岐近海は、有数の鰯の産地であった。風土記の記載も、出雲郡の鰯の優秀さを朝廷にアピールすることが狙い。

・出雲^{むしろ}席 史 415 など

アシやイグサなど湿地帯に生息する植物を編んで作った敷物 蓐蔭や畳に加工
『延喜式』にはさまざまな名前の席が見えるが、国名を冠したものは出雲と周防のみ。

『枕草子』149 段「いやしげなるもの …まことの出雲^{むしろ}筵の畳。」

—本物の出雲席で作った畳は下品なものという評価。

⇒席は神事に欠かせない重要なアイテム

史 378 出雲国造神賀詞

熊野大神・大穴持命ら国内 186 の官社に坐す神々を「いつの真屋に蓐草を、いつの席と蒔り敷き」など、神聖な設えで鎮めお祭りしていると報告。

『新猿楽記』（11 世紀中頃成立）四郎君が集めた諸国の土産
「所謂阿波絹、越前綿、…備中刀、伊予手筈、出雲筵、…備後鉄、…周防鯖、伊勢鯛、隠岐鰯、…」
→平安時代中頃まで、出雲の特産品の第一は「席」であった。

◇出雲の特産品の代名詞、「鉄」は？

史 394＝鉄や鉄製品がみえない。

（cf）美作・備中・備後・伯耆国では税として鉄や鉄を貢納）

出雲の鉄生産—遺跡で多数確認。

飯石郡粟目 I 遺跡・瀧坂遺跡（製錬）、仁多郡寺田 I 遺跡・芝原遺跡（鍛冶）など
沿岸部でも 7 世紀に遡る製鉄（製錬）が行われていた可能性（安来市岩谷口南遺跡）
『風土記』飯石郡「鉄有り」仁多郡「以上諸郷に在る鉄堅くして、尤だ雑具を造るに堪ふ。」

⇔出雲含めた山陰が日本列島の製鉄の中心地となるのは、山陽側の鉄鉱石が枯渇し、山陰の製鉄技術が確立する平安時代後半以降であり、それ以前は山陽側の吉備地域が中心。
＝奈良時代～平安時代前半まで、出雲の鉄は特産品として捉えられていなかった。出雲でつくられた鉄は、出雲を中心とした山陰やその周辺で利用されていたと推測される。

* 史 368—地子（公有田の収穫稲）交易によって出雲の鉄が都に進上

交易によって鉄入手＝地域内で鉄製品が相当量流通

次第に出雲の鉄・鉄製品が都でも認知されるように

『庭訓往来』（14 世紀前半成立）「…出雲鉄、…隠岐鮑、…」

『新撰類聚往来』（16 世紀頃？成立）「出雲…利鉄農〔豊カ〕、尤絹布多、…」

5. おわりに

・出雲はどんな地域として期待されたのか？出雲が古代国家で果たした役割とは？
天皇がもつ力の源泉と認識され、王権のアイデンティティたる建国神話の裏付けともなった品々（白鳥・玉）を献上
＝出雲が神話・伝承の舞台となりえたのは、白鳥の飛来地であり、列島有数の玉の産地という環境が非常に大きい
出雲近海で獲れる豊かな海産物→朝廷の食卓を支える
入海周辺の湿地帯で生産される席→朝廷や出雲の儀礼・神事を支える

・古代国家と古代出雲の変化 平安時代中・後期以降
神賀詞奏上儀礼の終焉（9 世紀後半以降）→王権を支える古代的神話の意義の低下
山陰地域の製鉄の隆盛 →特産品としての鉄・鉄製品の登場
⇒古代の出雲世界から、中世・近世の出雲へ

表1 出雲から都に運ばれた主な物品

品名	現代名	貢納種別	史料編番号	『出雲国風土記』の記載郡
須々支	スズキ	大贄	9	島根・秋鹿・神門
知奴／鎮仁	クロダイ	大贄	10	島根・秋鹿・神門
伊加／烏賊	イカ	大贄	16	島根・秋鹿
茂浜藻／海藻／若海藻／海藻根	海藻／ワカメ／メカブ	御贄	83・85・369・392・394・考古(22)・(24)・(25)	島根・秋鹿・出雲〔海藻〕
腊／雑魚腊／雑腊	干し肉／干し魚	大贄・交易進上・中男作物	161・394・考古(13)・(19)	
青海苔／鳥坂苔／紫菜	ノリ	交易雑物・中男作物	392・394	島根・秋鹿・楯縫・出雲〔紫菜〕
鰯／薄鰯／出雲鰯	アワビ	調・中男作物・五月五日節料	394・414	秋鹿・楯縫・出雲
糸(緋・縹・緑・橡・皂絲)	糸	進上・交易進上・(夏)調	83・267・393・394	
綿	綿	庸	133・394・422	
絹(白絹／緋・縹・縹・橡帛／帛)	絹	貢進・交易雑物・(夏)調	348・392・393・394・443	
白木韓櫃	大陸風の櫃	庸	394	
紙	紙	中男作物	394	
海石榴油・荏油・胡麻油	油	中男作物	394	意宇・島根・秋鹿・出雲・神門・大原〔ツバキ〕
神社剣／横刀	剣／大刀	国造献物	74・374・378	
鏡	鏡	国造献物	74・374・378	
白馬／白眼鵝毛馬	白馬／葦毛馬	国造献物	74・261・374・378	
鵠／白鵠	ハクチョウ	国造献物	74・374・378	秋鹿・出雲
水精玉／玉(赤水精・白水精・青石玉)／御富岐	水晶／玉(メノウ・水晶・碧玉)／連	国造献物・進上	83・374・376・378	意宇
生雉	キジ	国造献物	261	島根・秋鹿・飯石・仁多・大原
倭文	布	国造献物	374・378	
真珠	真珠	進上	83	
海松	ミル	交易雑物	392	意宇・島根・出雲
塩	塩	諸国所進雑物	410	(飯石)
綾錦	錦(絹織物)	進上	31	
純	絹織物	諸国年料交易	383	
黄燐石	黄シヨウバン石	進上	33	
紫草	ムラサキ	進上・交易雑物	83・392	飯石・仁多
罇瓠	ひさご製の容器	進上	83	
葉草(内訳は省略)		諸国進年料雑菓	411	各郡
鹿皮／鹿革	鹿皮	進上・交易雑物	83・180・392	全郡〔鹿〕
赤烏	カラス	進上	94	
筆	筆	進上・年料別貢雑物	83・390	
蘇	蘇(乳製品)	進上・貢蘇	83・391	
甘葛煎	ツタのシロップ	諸国貢進菓子	409	
鍬	クワ・スキ	地子交易	368	(仁多)
櫛子	器	諸国年料・交易雑物	383・392	
席／出雲席	ムシロ	交易雑物・供御料・春宮坊年料	392・413・415・487	
銅像・香炉	仏像・香炉	漂着物献上	189・190	
			83・463・464・484・492・(498)・(503)	
相撲人／相撲	力士	進上		
優婆塞	在家仏教信者	貢進	99	
語部	口承伝承者	進上	377	

表2 ハクチョウ類の都道府県別生息数(H27年度)

(単位:羽)			
都道府県	オオハクチョウ	コハクチョウ	計
北海道	3,244	396	3,640
青森	2,056	289	2,345
岩手	3,819	214	4,033
宮城	11,007	1,966	12,973
秋田	1,039	296	1,335
山形	590	9,179	9,769
福島	1,415	2,781	4,196
茨城	629	315	944
栃木	81	26	107
群馬	50	90	140
埼玉	0	79	79
千葉	68	1,108	1,176
東京	0	0	0
神奈川	0	0	0
新潟	1,445	17,346	18,791
富山	136	179	315
石川	0	2,071	2,071
福井	0	8	8
山梨	0	8	8
長野	9	144	153
岐阜	0	10	10
静岡	0	0	0
愛知	18	0	18
三重	0	0	0
滋賀	16	273	289
京都	0	2	2
大阪	0	0	0
兵庫	8	6	14
奈良	0	0	0
和歌山	0	0	0
鳥取	0	191	191
島根	4	1,621	1,625
岡山	0	0	0
広島	0	0	0
山口	0	0	0
徳島	0	0	0
香川	0	0	0
愛媛	0	0	0
高知	0	0	0
福岡	0	0	0
佐賀	3	0	3
長崎	0	0	0
熊本	6	4	10
大分	0	0	0
宮崎	0	0	0
鹿児島	0	0	0
沖縄	0	0	0
合計	25,643	38,602	64,245

〔「ガンカモ類の生息調査H27年度報道発表資料」(環境省生物多様性センター、<https://www.biodic.go.jp/gankamo/seikabutu/index.html>)を編集し作成〕